

第292回くらしの植物苑観察会 令和5年7月22日(土)

「佐倉城址公園の地衣類」

坂田 歩美 (千葉県立中央博物館 生態学・環境研究科 研究員)

地衣類は身近な場所に生育している生物にも関わらず、その存在は一般的にはあまり知られていません。名前にコケとつく種類が多いため、狭い意味のコケの^{せんたいるい}蘚苔類によく間違われますが、蘚苔類とは全く別の生物です。蘚苔類は葉緑体を持っていることから、維管束植物に近い仲間です。一方、地衣類の体の中を覗いてみると、菌類と藻類が見られます(図1A)。菌類は藻類に水などを提供し、一方、藻類は光合成産物である糖アルコールを菌類に与え、互いに助け合いながら生きています。地衣類は菌類と藻類が共生関係を結んだ複合生物です。世界中に広く分布し、木や石、地面の上に生育することが多いですが、葉の上やガードレール、海外ではナマケモノの上にも生育することが知られています。環境が合えば様々な物の上に生育できます。

千葉県北部の下総台地中央部に位置する佐倉城址公園では約30種の地衣類が見られます。これらは千葉県の街中から郊外にかけてよく見ることができる種類です。最も高頻度に見られるのは^{ようじょうちい}葉状地衣のウメノキゴケです。様々な場所の様々な樹木(ウメ、マツ、サクラなど)上に生育しています。佐倉城址公園に生育するウメノキゴケの仲間や広義ムカデゴケ科の多くは色や形から種類を区別できます。肉眼でも分かるような大まかな形と栄養繁殖器官(裂芽や粉芽)の有無が種類を区別するポイントとなります。他の地域で見られる葉状地衣には体に含まれる成分(二次代謝産物)の違いで区別する種類もあります。^{かじょうちい}痂状地衣は外見だけでは種類を区別することは難しく、種類を区別するためには、子器(有性生殖器官)の内部にある^{しのう}子嚢胞子の形や大きさなどを観察する必要があります。種類を区別できなくても、子器の形がおもしろいので、痂状地衣を見つけた場合はルーペで拡大して、じっくり観察してみてください。

図1 地衣類



マツゲゴケの地衣体断面

葉状地衣のウメノキゴケ

痂状地衣のコフキモジゴケ

.....

次回予告 第293回くらしの植物苑観察会

令和5年8月26日(土) 13:30~15:30

「ゲノムに記されたアサガオの歴史」

仁田坂 英二氏 (九州大学大学院理学研究院 准教授)

国立歴史民俗博物館 講堂 要事前申込先着順 定員240名

申込方法は歴博ホームページ又は右のQRコードでご確認ください。

